こんにちは。日本共産党の　世界の宝　日本国憲法　2021. 11. 4.　No. 554

大名美恵子です

東海村村松 2401-2　電話･fax　284-0761
携帯電話　090-3961-8578
E-mail　toukai@oona-mieko.info

お知らせします。

山田村長３期目就任後初めての定例記者会見での質疑応答について

（9 月 28 日　原子力に関する部分のみ）　➡　再稼働してはならないことに早く気づいて村長！

記者：村長再選後の定例記者会見は初めてだが，任期中に東海第二原発の再稼働に同意するかどうかの節目を迎えることになると思うが，現状のスタンスや今後についてどう考えるか。

村長：9 月 30 日の議会初日での所信表明で述べたいと思っているが，東海第二原発の再稼働問題については，現実的に判断できる状況にはない。それは変わっていない。今まで議会で述べてきたとおりだ。実効性のある広域避難計画の策定と住民の意向把握の２つが判断要素となると今まで言っている。そこがまだ整理されていない段階で判断はできないというところは変わっていない。

広域避難計画については，訓練を村独自でやっているが，本当の意味の広域避難計画というのは，県や国と調整をしながら，訓練をやる必要があると思っているので，今後はそういうところを協議したいと思っている。

住民の意向把握については今回の選挙でも直接住民と話す機会があったが，住民の方から原発問題についてストレートに聞いてくる人はそう多くはなかった。明確に反対という人もいれば，必要だという人もいたが，それを今回の選挙の判断材料としている感じには見受けられなかった。

村民の中にはまだまだ話しにくい雰囲気はあるのかなと思っている。自分ごと化会議をやって自分の意見が話せる場ができたことはできたが，これは一部の人だけなので，こういうものを参考にしながら，住民の意見を直接私自身が聞くことができる場を持つことについては引き続き検討していきたい。

記者：自分ごと化会議で視察と４回目の会議を予定していると思うが，ここまでの進捗状況についてはある程度予定通りか，それとも進んでいない印象か。

村長：参加した方に色々意見を述べてもらうと話題が多岐に渡る。全体をまとめていくというのは難しい。まだそこまでいっていないと思う。それぞれ自分が思っていることを話しているが，視点が違っていることもあるので，今はまだこういうところが気になるとかこういう考えだというところを言っている段階。

今後テーマを絞り込んでいって，最終的に参加者同士でどういう形で話をまとめていくかというところに注目している。今まで３回やって，自分の思っていることは少し言えているのかと感じている。ただ，参加者同士で話をするというところまではなかなか持っていけていないとも思っている。コーディネーターの伊藤さんに引っ張ってもらっている感じはある。

記者：自分ごと化会議は 5 回で終了するということだったが，何回か延長することもあるのか。

村長：構想日本のこの手法が，ある程度期間を決めてまとめていくのか，それとも延ばすのが良いのかということがあると思うので，もしかすると，参加者に意向を確認して変わる可能性もあるが，当面は区切りをつけた方が良いと思っている。今後，構想日本と調整して検討していきたいと思う。

裏面に続きます。

女性の自殺 15%増

2020 年の女性の自殺者数は 7,026 人だったことがわかりました。

前年より 935 人（15・4%）の増。男性が微減だった一方で女性が大きく増え、全国の自殺者数は 11 年ぶりに増加に。政府が 2 日閣議決定した 21 年版の自殺対策白書はコロナ禍の状況を分析し、特に働く女性らが追い詰められている実態も明らかになったとの事です（朝日新聞デジタルから）。

記者：自民党の総裁選の候補者である河野太郎氏は核燃料サイクルについて止めるべきという主張があったが，これに対する村長の受け止めと，仮に核燃料サイクルを止めることになった場合，村への影響，反響はどのようなことが考えられるか教えていただきたい。

村長：核燃料サイクルは原子力政策において，非常に重要なポイントだと思う。発電所運営そのものに影響を及ぼすものであるため，国の中でも一個人の意見というよりは，政府や与党内できちんと議論をした上で，結論を出してもらいたいと思っている。

核燃料サイクルを止めることになった場合の話は，東海村は研究開発の拠点として核燃料サイクルは色々な技術研究をしてきた。今はその技術を六ヶ所村へ移転しているが，東海村は廃止措置が一番の課題となっていて，原子力の政策がどうなるにしても，廃止措置を確実に進めてもらうことが一番の課題となっている。そこだけは置いてかれることがないようしっかりと国へ伝えていこうと思っている。

廃止措置を含めて原子力は課題がたくさんある。長期的な課題も多く，課題解決するには研究開発が絶対に必要だと思っている。そのためには，予算もそうだが，人をきちんと育成することだけは忘れないでやってほしいとの思いはある。

記者：村長自身は核燃料サイクルが引き続きあった方がいいと考えているのか。

村長：原子力政策については，軽水炉のサイクルと高速炉のサイクルと２つあり，高速炉はやめることになったが，軽水炉のサイクルが成り立たないならば，今現実にあるものをどうするのかという問題は顕在化するので，そこも合わせて考えないといけない。

現実の問題を直視し，理想的な形を含めてどうするのか，十分な議論が必要だと思っている。

坂本弁護士一家殺害事件から 30 年　～事実や教訓を正しく後世に伝えたい

事件は 1989 年、今から 30 年前の 11 月 4 日未明に発生しました。

午前 3 時頃、横浜市磯子区のアパート 2 階に、6 人の男たちが忍び込み、就寝中の坂本堤弁護士（当時 33）一家に襲いかかったのです。

「子どもだけは……」　妻の都子さん（同 29）が、長男龍彦ちゃん（同 1）の命乞いをしたり、犯人の指を咬んだりして抵抗しましたが、抑え込まれてしまいました。3 人は首を絞められたり、口を押さえられたりして窒息死させられたのです。　（↑↓江川紹子さん筆より　ジャーナリスト・神奈川大学特任教授）

「幸せ探しの名人」と呼ばれて多くの方々に慕われた都子さん。19 歳の時に日記に書いた詩です。

〈赤い毛糸に　だいだいの毛糸を　結びたい
だいだいの毛糸に　レモン色の毛糸を　結びたい
レモン色の毛糸に　空色の毛糸も　結びたい
青い空と　濃い緑の森を結びたい
結びたいんだ…　このまちに生きる　ひとりひとりを
結びたいんだ…　私の思いを　あなたの心に〉

この事件の捜査に成功していれば…

坂本弁護士一家の事件で捜査や追及から逃げ切ったことで、麻原はより大胆になり、教団の武装化に乗り出す。彼らを肯定的に取り上げるメディアの存在も大きかった。オウムは次々に人を勧誘し、金を集め、勢いを増し、松本・地下鉄両サリン事件などを引き起こす。

もう少し初動捜査がしっかりなされていれば、せめて送られてきた地図に基づいた捜索活動を入念に行い遺体の発見に至っていれば、坂本一家の事件は早期に解決したのではないか。そうすれば、その後の事件で命を奪われる人も奪う人も出なかっただろう、と悔やまれる。